

- 2020年に、再処理工場・MOX加工工場が事業変更許可を取得。現在、設計および工事の計画の認可審査中。
- 最新の日本原燃による六ヶ所再処理工場及びMOX加工工場の暫定の操業計画、電気事業者によるプルトニウム利用計画を踏まえて、使用済燃料再処理・廃炉推進機構が、具体的な再処理量等について記載した実施中期計画を変更。

考え方

「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」（原子力委員会決定）の趣旨を踏まえ、計画の策定を行うこと。

回収されたプルトニウムが、時宜を失わずにMOX燃料として装荷・照射され、消費されること。

（再処理で回収したプルトニウムが、MOX燃料として発電所で装荷・照射されるまでの期間は、設計・加工や輸送に係る期間を踏まえて約4年と想定。）

		当面の計画						(参考) 2028年度以降の見込み	
		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	2029年度
		上期	下期	上期	下期	上期	下期		
暫定操業計画 (日本原燃)	再処理量 (tU)	-	-	-	0	0	70	170	90
	回収Pu量 (tPu)	-	-	-	0	0	0.6	1.4	0.7
プルトニウム 利用計画 (電事連)	Pu消費量 (tPu)	0.0 (0基)		0.7 (1基)		0.7 (1基)		0.0	3.3
	プルサーマル実施	高浜3, 4 / 伊方3 / 玄海3 / 島根2 (調整中)							

※「六ヶ所再処理施設およびMOX燃料加工施設 暫定操業計画」（2024年12月13日,日本原燃）、「プルトニウム利用計画」（2025年2月14日,電気事業連合会）より引用。

実施中期計画	再処理量 (tU)	0.0	0.0	70	170	90
	Pu回収量 (tPu)	0.0	0.0	0.6	1.4	0.7
	MOX加工量 (tPu)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※プルトニウム利用計画におけるプルサーマル炉4基の年間利用目安量は2.1tPu
※2025年度末の日本のプルトニウム保有量は、44.5tPuとなる見込み

※四捨五入により合わない場合がある。